



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	日東富士製粉株式会社静岡工場中央倉庫建替工事	BEE	0.6	BEEランク	B-
				★	★★

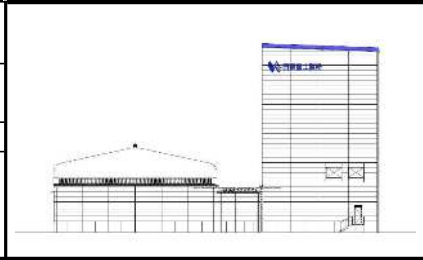
2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点※/満点	取組み度	評価		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつう		
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.6 /5		がんばろう		
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.8 /5		がんばろう		
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	1.7 /5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつう 3点以上	がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。					
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)		得点	3.0		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 自動ラック倉庫内で高さの高低差による温度差が極力生じないように換気方法を検討した。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 緑地の緑が連続するように緑化計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 効率的な換気方式を検討した。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 衛生設備は節水仕様のもので採用した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 条例に遵守した対応を行った。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2	①	外皮性能		
	Q-1 3 3.1 3.1.3	②	屋光利用設備		
	3.2 3.2.1	③	昼光制御		
	Q-2 2 2.2 2.2.1	④	躯体材料の耐用年数		
	2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
	2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
	2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
	2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
	2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
		⑤	生物環境の保全と創出		
	Q-3 1	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	3 3.2				
	LR-1 1	⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
	2	⑧	自然エネルギー利用		
	3	⑨	設備システムの高効率化		
	4 4.1	⑩	モニタリング		
	4.2	⑩	運用管理体制		
	LR-2 1	⑪	節水		
	1.2 1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無		
	1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
	2 2.1	⑫	材料使用量の削減		
	2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用		
	2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
	2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
	3 3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用		
	3.2 3.2.1	⑬	消火剤		
	3.2.2	⑬	断熱材		
	3.2.3	⑬	冷媒		
	LR-3 1	⑭	地球温暖化への配慮		
	2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)		得点	2.6		
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 建築基準法に定められた耐震性を有する設計を行った。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯	耐震性		
	2.1.2	⑯	免震・制振性能		
	2.4 2.4.1	⑰	空調・換気設備		
	2.4.2	⑰	給排水・衛生設備		
	2.4.3	⑰	電気設備		
	2.4.4	⑰	機械・配管支持方法		
	2.4.5	⑰	通信・情報設備		
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)		得点	2.8		
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 自動ラック倉庫導入により収容能力の最大化と機能性を図った。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 敷地の北側に高さのある自動ラック倉庫棟を配置することで、日影が敷地内に落ちるよう計画した。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画		
	3 3.1 3.1.1	⑲	階高のゆとり		
	3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ		
	Q-3 3 3.1	⑳	地域性への配慮、快適性の向上		
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)		得点	1.7		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) 敷地境界際に緑地を配置することで景観へ配慮した。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善)</p>	Q-3 1	⑤	生物環境の保全と創出		
	2	②	まちなみ景観への配慮		
	3 3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	LR-2 2 2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
	LR-3 2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		

# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日東富士製粉株式会社静岡工場中	階数	地上1F
建設地	静岡県静岡市	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条地域、臨港地区	平均居住人員	4人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2021年12月21日
敷地面積	8,430㎡	作成者	豊嶋 真喜
建築面積	2,298㎡	確認日	2021年12月22日
延床面積	5,461㎡	確認者	唐澤 裕三



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	71%
③上記+②以外の	71%
④上記+	71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.2

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.4

機能性	耐用性	対応性
1.5	2.7	3.4

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	まちなみ	地域性・
2.0	3.0	1.0

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的
1.0	3.0	5.0	2.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.4	2.4	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	地域環境	周辺環境
4.1	1.8	2.8

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	0	
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 更新に配慮した計画を行った。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地周辺を緑化することで周辺環境への配慮を行った。
LR1 エネルギー 効率的な換気方式を検討した。	LR2 資源・マテリアル 衛生設備は節水仕様のものを採用した。	LR3 敷地外環境 条例に則った対応を行った。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される